



営農NEWS



水稻の斑点米カメムシ類の防除を徹底しましょう

県内における水稻の品質低下（等級落ち）の主な原因として、乳白米や黒点米など障害粒の発生とカメムシ類による斑点米の混入があります。なお、これらはいずれも高温の年に、発生しやすい傾向です。

病害虫発生予報7月号によると、クモヘリカメムシの産卵開始時期は平年並と予測しています。

本県の斑点米カメムシの主要種はクモヘリカメムシで、次いでイネカメムシですが、その他にホソハリカメムシ、アカスジカスミカメ、アカヒゲホソミドリカスミカメなどが関与するとされています。

現在、水稻の出穂予測時期は、農業研究所の「農研速報」によりますと、「あきたこまち」では水田利用研究室（龍ヶ崎市：7月3日または6日調査）の4月24日移植で7月13日、5月7日移植で7月24日、作物研究室（水戸市：7月9日調査）の5月1日移植で7月17日頃と平年より1～6日遅い予想となっています。また、「コシヒカリ」では、前者は4月24日移植で7月25日、5月7日移植で7月31日頃、後者は5月1日移植で7月25日、5月11日移植で8月3日頃と平年並～4日遅い予想となっています。

このため、圃場の出穂時期をよく確認しておき、出穂後の下記の防除適期に斑点米カメムシ類の防除を必ず実施してください。なお、水田内でのカメムシ類の生息を確認する場合は、日中の高温時は避けて、夕方や早朝など涼しい時間帯に水稻の穂などを注意深く観察してください。

<薬剤防除のポイント>

1. 本田に侵入したカメムシ類の成虫を対象とした場合、防除適期は穂揃期です。
2. 斑点米カメムシの幼虫を対象とした場合、防除適期は出穂10～15日後頃です。斑点米を抑制するためには、とくに新幼虫を対象とした防除が最も重要です。

なお、その後はカメムシ類の発生を観察しながら、必要に応じて追加防除を行いましょう。

3. 出穂が周辺よりも早い水田、ヒエ等の雑草が多発している水田では、成虫の飛来が集中しやすい傾向があります。また、出穂の遅い水田では、周辺の水田で増殖した新成虫が侵入してくることがあります。これらの水田では特に十分な注意が必要です。
4. 防除を行う際は、収穫前日数などの農業使用基準に十分に注意してください。また、ミツバチへの被害を軽減するため、ミツバチの活動が盛んな時間帯（午前8時～12時まで）を避け、可能な限り、早朝または夕刻に実施してください。

表1 水稻 カメムシ類の主な防除薬剤 (令和2年7月20日現在)

薬剤名	希釈倍数	使用時期 / 使用回数	分類
MR. ジョーカーEW	2,000倍	収穫14日前まで / 2回以内	3A
MR. ジョーカー粉剤DL	3～4 kg/10a	収穫7日前まで / 2回以内	
キラップフロアブル	1,000～2,000倍	収穫14日前まで / 2回以内	2B
キラップ粉剤DL	3～4 kg/10a	収穫14日前まで / 2回以内	
スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	収穫7日前まで / 3回以内	4A
スタークル粉剤DL	3 kg/10a	収穫7日前まで / 3回以内	
スミチオン乳剤	1,000倍	収穫21日前まで / 2回以内	1B
スミチオン粉剤3DL	3～4 kg/10a	収穫21日前まで / 2回(出穂前は1回)以内	

- 注) 1. 各薬剤の液剤または粉剤の、いずれかを使用してください。
 2. 専用の少量散布用ノズルを装着した乗用型の地上液剤散布機器を用いる場合や、無人航空機を使用する場合には、それぞれの農業使用基準を遵守して使用してください。
 3. 分類欄には、IRACコードを記載しました。同一分類（コード）は作用点が同じなので、連用は避けてください。

農業使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。



JA全農いばらき

生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040